

2009年度 決算説明会
主な質疑応答

Q1: 構造改革は今年度でほぼ終了のめどが立ったとのことですが、残されたやるべきことについてはどう考えていますか？

A1: 2010年度は、イメージング分野では残った世界の現像ラボ網の集約、ドキュメント分野では現在実施中のR&D・生産の再編をさらに進めていきます。大規模な費用は発生しませんが、今後も恒常的に会社の無駄を省く取組みについては実施していきます。

Q2: 構造改革費用の総額が、当初予定よりもやや増加していますが効果は増えないという理解でよいのでしょうか？

A2: 構造改革費用総額は当初予定より87億円増の1,687億円と増加する見込みです。2009年度の効果は想定より早く表れ、約380億円の効果となりました。累積効果としては当初計画どおり2011年度で年間900億円程度の効果を見込んでいます。

Q3: 2010年度の配当予想は30円とされており、目標としている還元性向25%のレベルですが、仮に業績の上ブレがあればさらなる配当上乘せもありえるのでしょうか。

A3: 業績の動向に応じて、配当と自社株買いを合わせて25%以上の株主還元を目指していきたいと考えています。

以上